

※ 自力で勉強ができる自分になる

自己改革を推進しよう

さあ、新しい1年の始まりです。1年生は、きっと緊張感一杯のことでしょう。新しい環境に慣れるには少し時間がかかると思いますが、新たな目標に向けた挑戦が始まります。焦らず着実に前進していきましょう。さて、2、3年生はどうでしょう？中にはこれまでの高校生活で、すっかり自信を無くしている人もいないかもしれません。まだ残り時間はたくさんありますから、ここで気持ちを切り替えて再出発です。特に、今年からは、自主的な家庭学習に積極的に取り組めるように自己改革を進めてほしいと思います。今後のみなさんの変化に期待します。

※ 自分で考える勉強をしなければ…

求められる『読解力・思考力・表現力』は向上しない！

共通テストをはじめとする大学入試では、「読解力」「思考力」「表現力」を問う出題が中心となります。ゆえに、進路目標の実現には、これらの力を向上させる必要があります。しかし、授業や課外に出席しただけで満足したり、解答の丸暗記をしたりするのは十分な力がつきません。時間をかけて、自分の頭でしっかり考え、理解を深めていくような勉強の積み重ねが絶対に必要です。これは、現在の東高生の最大の課題と言えます。己の現在の状況を顧みて、改善に向けて行動を開始することを求めます。

特集 2021年入試 結果報告 ①



新たに『大学入学共通テスト』が導入された

以下は、初めての「共通テスト」について、「河合塾ガイドライン4・5月号」での分析結果を引用し要約したものになります。(資料提供：河合塾)

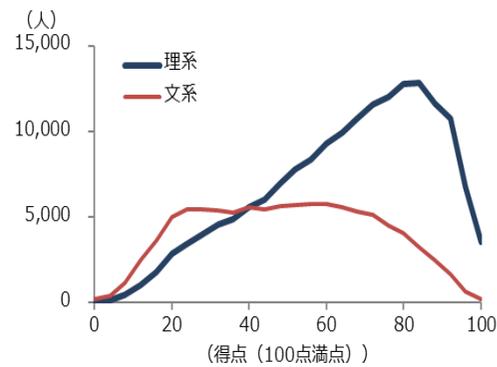
■ 作問や出題形式が変化 読み取る資料の分量も増加

これまでのセンター試験に比べ、解答マーク数が減少した科目が多かった一方で、**グラフ、地図、写真、文章など読み取る資料の分量が全体的に増加しました。**また、授業における学習場面、日常生活の中から課題を発見して解決方法を構想する場面、資料やデータをもとに考察する場面など、**学習過程を意識した出題設定が科目を問わずみられました。**

■ 科目別平均点の変化 多くの科目で平均点が上昇・理社では「得点調整」

下図は大学入試センターが公表した第1日程の主な科目の平均点一覧です。英語の「リーディング」「リスニング」、国語の平均点は前年並みでした。一方、数学では、「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ・B」あわせて約16点のアップとなりました。特に理系生で「数学Ⅱ・B」を高得点できた者が多かったようです。「数学Ⅱ・B」では問題分量は増加したものの、丁寧な誘導がなされていた

め、数学を深く学んでいる受験生には取り組みやすい問題となっていました。下図に示すように、文系の分布を見ると、得点できた者とできなかった者の差が開いた様子がわかります。



「数学Ⅱ・B」受験者文系・理系別得点分布

理科①では、選択者の多い「生物基礎」「化学基礎」の平均点がダウンしました。また、主に理系生が受験する理科②では得点調整が行われました。最も平均点が高かった「生物」に対し、20点以上の差がついた「化学」との平均点差を15点に調整するため調整の対象となった「物理」「化学」で多くの受験生の得点が上昇しました。

地歴では受験者の多い地歴B3科目の平均点はいずれも6割台前半で、科目間の差は小さくなりました。公民では「倫理」と「政治・経済」の平均点に20点以上の差がつき、「現代社会」「政治・経済」で得点調整が行われました。このため「倫理」の平均点が7割を超えたほか、「現代社会」「政治・経済」の平均点もアップしました。

教科・科目名		平均点		
		20年度	21年度	前年差
外国語	英語(筆記/リーディング)	58.15	58.80	+0.6
	リスニング	57.56	56.16	-1.4
数学①	数学Ⅰ	35.93	39.11	+3.2
	数学Ⅰ・数学A	51.88	57.68	+5.8
数学②	数学Ⅱ	28.38	39.51	+11.1
	数学Ⅱ・数学B	49.03	59.93	+10.9
国語		119.33	117.51	-1.8
理科①	物理基礎	33.29	37.55	+4.3
	化学基礎	28.20	24.65	-3.6
	生物基礎	32.10	29.17	-2.9
	地学基礎	27.03	33.52	+6.5
理科②	物理	60.68	62.36	+1.7
	化学	54.79	57.59	+2.8
	生物	57.56	72.64	+15.1
	地学	39.51	46.65	+7.1
地理歴史	世界史A	51.16	46.14	-5.0
	世界史B	62.97	63.49	+0.5
	日本史A	44.59	49.57	+5.0
	日本史B	65.45	64.26	-1.2
	地理A	54.51	59.98	+5.5
	地理B	66.35	60.06	-6.3
公民	現代社会	57.30	58.40	+1.1
	倫理	65.37	71.96	+6.6
	政治・経済	53.75	57.03	+3.3
	倫理・政治・経済	66.51	69.26	+2.8

※大学入試センター資料より、数値は得点調整後のもの
2020年度はセンター試験(本試験)の数値で、英語の平均点は筆記・リスニングとも100点満点に換算して算出

■ 7科目型平均点は理系で上昇 高得点は取りにくく上位者は増加せず

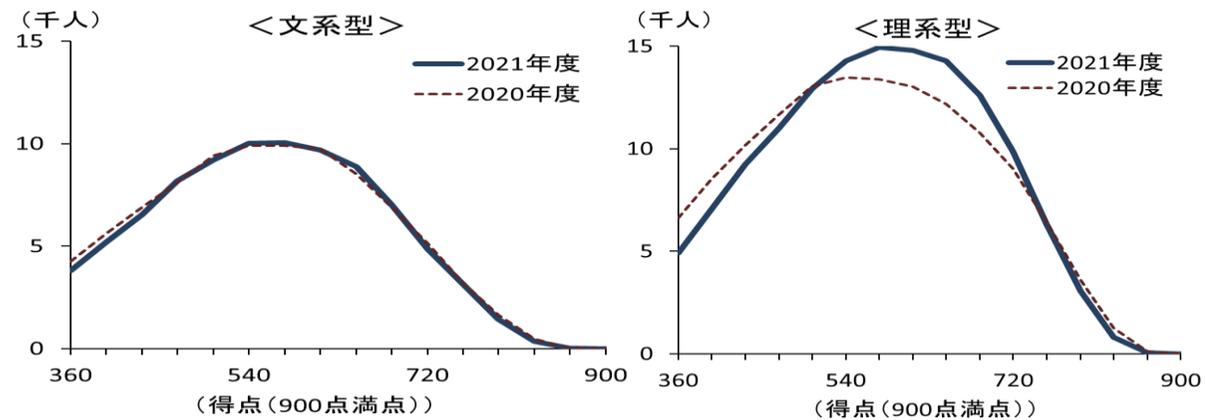
下図は共通テストの7科目型平均点です。共通テストの平均点は7科目文系型(900点満点)が555点(前年差+8点)、7科目理系型(900点満点)が571点(前年差+19点)となりました。

	20年度	21年度	差
7科目文系型	547点	555点	+8点 (+0.9%)
7科目理系型	552点	571点	+19点 (+2.1%)

※河合塾推定
7科目文系型：英・数(2)・国・理(1)・地公(2) (900点満点)
7科目理系型：英・数(2)・国・理(2)・地公(1) (900点満点)
* 2020年度はセンター試験の数値で、英語は筆記+リスニングの250点を200点に換算して集計
* 理科の基礎を付した科目は2科目で1科目とする

7科目理系型では、**数学、理科の平均点アップが20点近い平均点上昇につながりました。**7科目文系型では、**数学の平均点はアップしたものの理系生ほどの上昇にはならなかったこと、理科①で平均点がダウンしたこと**などから、平均点の上昇は小幅にとどまりました。

7科目型では、平均点が上昇したわりに文系・理系型とも720点（得点率8割）以上の高得点層は増加していません。高得点は取りにくかったのが特徴です。なお、理系型では得点率6割以上8割未満の得点率帯で受験者が大きく増加しています。



本校生の結果

↓大学入学共通テスト導入にもコロナ禍にも負けず

東高3年生は最後まで頑張った！

国公立合格者数増加 難関・東北大にも合格

2021年入試から「大学入学共通テスト」が導入され、これまで以上に、「読解力」や「思考力」を問う問題が出題されました。さらに、新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、休校措置が取られたり、入試方法の変更が加わったりしたことで、全国の受験生は、さまざまな面で大きな影響を受けました。これらにより、受験生の心理として、早い時期に確実に合格を手にしたという「安全志向」や「地元志向」が、昨年以上に強まったと考えられます。

本校3年生は、このような厳しい状況下でも、最後までくじけずに本当によく頑張りました。先輩のこの頑張りを後輩たちもしっかり受け継いでほしいと思います。



1 国公立大入試の結果

合格者数 66名 (前年比+23)

東北大 福島大19 県立医科大8(看護2 保健科学6) 会津大

国公立大入試の学校推薦型及び総合型(AO)選抜では21名が合格しました。特に、今年度新設の福島県立医科大の保健科学部の4学科に、合計6名の合格者を出すことができました。一般入試では、前期及び独自日程で43名、後期日程では2名が合格し、合格者数の全日程の合計はのべ66名でした。これは、前年度に比べ23名の増加です。大学入試改革やコロナ禍の影響が大きかったにも関わらず、本校3年生は最後まで本当に頑張りました。中には、「D、E判定」からの逆転合格を手にした人もいます。最後まであきらめずにやり抜くことの大切さを改めて教えてくださいました。

大学別では、まず、難関の東北大に合格者を出すことができました。また、地元の福島大、県立医大看護、会津大等をはじめとする東北地区の大学でも合格者が増加しました。さらに、新潟大、茨城大、宇都宮大など、他地区の大学にも、多数合格しています。

【試験日程別合格者数内訳】 ()は昨年度

○ 推薦・総合型選抜	21名 (19名)
○ 前期・独自日程	43名 (23名)
○ 後期日程	2名 (1名)
合計 66名 (43名)	



合格者数増加の要因

① 本校の指導の流れにのり最後まであきらめなかった

日々の授業をはじめ、課題、課外授業、考査、個人添削指導など、本校での学習指導を中心とした勉強を、最後まで継続した人が多かったことが最大の要因と思われます。そして、担任や教科担当者のアドバイスをよく聞いて、それらを実行できた人が実力を伸ばして合格を手にしています。

② 実力に合った適切な「二次出願」を行った

国公立大の出願先の決定は、本人の希望に加え、共通テスト後の合否判定結果と記述模試の成績や志望大の試験科目・配点、出題内容等を考慮し、総合的に判断して行います。日頃から、担任や保護者とよく話し合い、互いの考えを理解しあいながら、自分の実力に見合う適切な出願先を決定できた人が多かったことが特徴的でした。これが、合格率が高さにつながったと考えられます。

③ さまざまな入試方式を計画的に活用した

国公立大入試にも、一般入試(前期日程、後期日程、中期日程、独自日程)、学校推薦型選抜、総合型選抜(AO)と、さまざまな方式があります。それらのしくみを理解し、計画的に活用して受験のチャンスを増やすことができました。また、3月の卒業式後の「中・後期日程」まであきらめずに受験を続けた人が多い学年でした。そうした攻めの姿勢が合格につながったと思われます。

④ 「英語4技能外部検定」や「探究活動」の取り組みが評価された

特に、「推薦型・総合型選抜」では、「英検」の取得や総合的探究の時間での「探究活動」の取り組みが評価されました。大学によっては、取得した英検のスコアが推薦選抜の出願条件となったり、志願理由書や推薦書に探究活動の取り組みに関する記載を求められたりしました。また、面接試験でもこれらの活動についての質問がされています。本校の英語4技能外部検定の全員受験や総合的探究の時間での探究活動の取り組みが、入試において活かされたという人が多かったようです。なお、私立大入試でも、英語4技能外部検定の結果が有利に働いたという人が多数います。

2 私立大入試の結果

私立大学の合格者数はのべ307名で、前年度を上回りました。主な大学は以下の通りです。

近年の文科省による「定員の厳格化」を受け、以前より合格者数を抑えている大学が増えていることに加え、コロナ禍の影響により、全国的に「安全志向」と「地元志向」が強まったため、これまでとは異なる受験生の動きが見られたようです。今回の全国の私立大入試の詳細については、情報を収集した後、報告します。

【主な合格大学】

東北医科薬科大学(薬) 東北学院大学 東北福祉大学 日本大学工学部 郡山女子大学
 国際医療福祉大学 立教大学 法政大学 駒澤大学 専修大 神奈川大学 大東文化大学
 東洋大学 白鷗大学 文教大学 明治学院大学 獨協大 関西学院大 など多数